

ルーマニアの大統領選（606号）

2025年 5月 石館

東欧ルーマニアで5月18日大統領選挙の決選投票が実施された。中道派でブカレスト市長のダン氏が野党の極右政党、ルーマニア人統一同盟のシミオン党首を下し、当選を確実にした。得票率はダン氏54%シミオン氏が46%であった。争点だったEUとの統合路線を維持し、ウクライナ支援も継続される見通しだ、



左地図のようにルーマニアは地政学的にロシアにとって非常に重要な場所を占めている。

モルドバは去年の選挙でロシアの選挙介入にも関わらず、親西欧の政権になっており、ロシアは更にルーマニアが親西側の政権になることは何としても避けたいところ

である。

隣国ハンガリーのオルバン政権は親口路線を進んでおり、EUやNATOのメンバーでありながら、EUの団結を乱すような動きをしている。

1回目の投票ではシミオン氏の得票率が41%となり、リベラル派のダン氏が21%で続いた。選挙戦の当初はシミオン氏が優勢と見られたが、終盤になってダン氏が追い上げ、支持率は拮抗していた。

ダン氏はEUの価値観を重視し、ウクライナ政策では支持を継続すべきだとの立場だ。ブカレスト市長としての実績を活かし、汚職対策や財政赤字の削減による経済危機の回避を訴えた。

シミオン氏はトランプ米大統領を模倣して自国第一主義を掲げ、ポピュリストと目されてきた。ルーマニアの領土だった歴史のある隣国モルドバやウクライナ領の一部について併合を公言したこともある。ウクライナへの支援削減を

公約としてきた。ルーマニアの大統領の任期は5年。外交と国防に権限を持ち、行政権を持つ首相などの任命権もある。



ルーマニア大統領選で勝利宣言をするダン氏

今回の選挙は人口約1900万人ルーマニアが、チャウセスク独裁政権を打倒した1989年の民主化革命以降の親EU路線を維持するか左右するとして、国内外の注目を集めていた。黒海に面して地

政学の要衝である同国が、ウクライナ支援を継続するかも争点だった。

ダン氏は各国の高校生が数学の能力を競う国際数学オリンピックで金メダルを獲得し“数学の天才”と呼ばれた。フランスで数学の博士号を取得し、ブカレストの大学で教授を務めた。汚職対策や歴史建造物の保護活動に取り組み、後に政界入りを果たす。誠実な性格で知られる一方、カリスマ性には欠ける。ブカレスト市長を20年から務めた。

以前のレジメにも何回か書いたことがあるが、小生はチャウセスク独裁政権時代に、同国の復興需要の商談に参加するため、ドイツから再三ブカレストを訪れた。ブカレスト空港の税関で“ケント”というタバコか女性のストッキングを強請られるので、現地駐在員のために持ち込んだ日本食をスムーズに通関させるため、いつもいくつかが用意していった。

また入国した後でも秘密警察らしき者に後をつけられたことも再三ある。商談では常に監視役が同席し、汚職などの話が出ないようにしていた。1977年3月4日にルーマニアで大地震が起き、小生はその1日前まで迄ブカレストに居たが、定宿にしていたインターコンチネンタルホテルの隣のビルが倒壊し80名が亡くなった事故には1日違いで遭遇しなかった。

社会主義国ルーマニアは1965年から独自路線を推進したが、独裁政治

に陥り、1989年の東欧革命の中で政権が倒され、チャウセスク大統領夫妻は、民衆裁判で処刑された



この処刑の映像は世界中に拡散された。

ルーマニアの独裁権力を握ったチャウセスクは、民族主義路線を強め、独自外交路線を鮮明にした。1967年には東ドイツの反対を押し切り西ドイツと国交を樹立。68年のソ連軍のチェコスロバキア介入

に対してもソ連を批判し、軍隊を派遣しなかった。

また同年8月にはニクソン米大統領をルーマニアに招待し、ソ連を牽制した。1971年にはチャウセスクは中国を訪問して大歓迎を受けたが、その時ニクソン訪中の工作をしたと言われる。

チャウセスク政権崩壊後、ルーマニアは親西欧政権が続いた。ところが昨年11月24日に実施された大統領選挙の第一回投票では、泡沫候補とされていた親ロシア・反NATO派のジョルジュスク候補が、数十年にわたりルーマニア第一党の座を維持してきた社会民主党のチョラク首相を含む有力候補を破って突然最多得票数となった。

ところが憲法裁判所は、この選挙はSNS不正操作などを背景に無効決定が下され、5月4日に行われた再選挙にはジョルジュスク氏は立候補できなくなり、極右のルーマニア統一同盟候補のシミオン氏が得票率40.96%でトップ、無所属で現ブカレスト市長のダン氏が20.99%で次点となり、5月18日両者の間で決選投票が行われた。

決選投票の投票率はおよそ65%となり、1回目の投票(53%)から大幅に高まった。主要な中道政党などが“反シミオン”で団結し、有権者に投票に赴く様に強く働きかけたのが奏功した模様だ。シミオン氏はロシア寄りのジョルジュスク氏を首相に任命すると表明し、終盤で支持層の広がりを欠いた。政治混乱が深

まる懸念はひとまず後退したが、議会運営は難路だ。シミオン氏が党首を務めるルーマニア人統一同盟が議席のおよそ2割を握り、影響力を維持する。ダン氏は首相の任命など政権樹立に向けた連立交渉に数週間かかるとの見通しを示した。中道勢力の結集は難航するとの見方が多い。



ドラキュラの城として観光名所

ルーマニアの経済運営は今後とも厳しい道のりとなろう。24年の財政赤字はGDPの9%に達し、EU域内で最悪の水準だ。国債の価格が急落し、格付けが“投資不適格”に引き下げられる可能性もくすぶる。

ダン氏は大規模な歳出削減や増税など、痛みを伴う改革を迫られる。為政者はどうしてもポピュリズム的な政策を取りたがるが、ダン氏は果たして、国家の将来を考えた厳しい施策を取れるであろうか。